セブ島通信
セブ日本人会報
2017年11月号
（隔月発行）
発行所
セブ日本人会
5th Floor
Clotilde Commercial Bldg.
ML Quezon St. Casuntigan,
Mandaue City, CEBU
TEL:(032)343-8066
FAX:(032)34307663
発行人：櫻井絹恵
編集人：セブ日本人会
http://www.ja-cebu.com
info@ja-cebu.com

セブ補習校大運動会

セブ日本人補習授業校 校長 松田和人

２０１７年１０月８日（日曜）に第２７回セブ補習校大運動会が開催されました。例年この時期の天候の心配は付きもので、今年は特に雨が多いため懸念しておりましたが、晴天のうちに全て終える事ができました。また、今年は私が校長として２回目の運動会となり、昨年の緊張とは違ったかたちで体験させていただきました。毎年、諸先生方を中心に準備をしていただき開催できていることに感謝です。そのうち道具運搬については、前日～当日に渡り日通様 より御協力をいただいております。

まずは種目の紹介

①玉入れ
②綱引き
③障害物借り物競争
④ここまでおいで
⑤パン食い競争
⑥ニアピンコンテスト
⑦親子二人三脚
⑧大玉リレー
⑨紅白対抗混合リレー

今年の司会は、運動会の風物詩でもあった黒田さんからのバトンタッチで、セブで音楽を教えておられる中原さんが快く引き受けてくださりました。とても初めてとは思えないほどスムーズな司会進行で、是非今後も続けていただければと思っております。余談ですが、当日の朝に黒田さんから中原さんあてに司会においてのアドバイスのメールが届いていたと聞きました。黒田さん、日本からのご支援ありがとうございました。

ご来賓の挨拶には、在フィリピン日本国大使館セブ領事事務所より鶴岡所長。セブ日本人商工会議所からは浅井会頭。セブ日本人会からは櫻井会長にお越しいただき、ともに会の最後までお付き合いいただきました。領事事務所からも、山田領事、降幡領事と総出で参加いただけたことも嬉しく思いました。会場設営や各種目の運営サポートには、元先生やボランティアの皆様のお力も加わり支えられております。

次に運動会開催について、私なりの所感を述べさせていただきます。"運動会" という響きは大人の私にとっても、聞けばワクワクすると同時に小学生の頃を思い出します。その頃の運動会と比べると規模や時間、そして家族とともに食べるお弁当など、補習校の児童や生徒は経験値が少ないのではないかと感じています。同じように感じられたであろう先達たちによって始められたこの補習校運動会が２７年も続くことに歴史を感じます。又その時代時代における変化があったと聞きます。日本においても必ず秋に行われていた運動会が春に変わったり、危ないからという事で騎馬戦競技が止めになったり。それを一所懸命に応援している父兄、見守っている人々がいるということは、形変われど運動会の意義がそこにもあるのだと私は思います。

少し運動会の歴史について調べてみたので、皆様にもお伝えします。日本での最初の運動会は、１８７４年（明治７）年３月に行われた海軍の幹部育成のための「海軍兵学寮」（東京の築地）と言われているそうです。イギリスからの先生が「アスレチックスポーツ」をしたいという提案があり、それを「競闘遊戯」と訳したそうです。種目は、短中距離走・走り高跳び・三段跳び・走り幅跳び・二人三脚・卵採り・背負い競争・水おけ競争など１８種もあったそうです。また、私たちの知る運動会の競技が日本から生まれたものでないことに驚きです。この「競闘遊戯」が運動会として日本全国に拡まり、１８７８年に札幌農学校で「力芸」、１９８３年に東京大学で「運動会」として開かれたそうです。のちに師範学校、小学校、中学校へと拡がっていきました。初期の運動会は、数校の児童や生徒が近くの野原、浜辺、神社、訓練所などに集まって行われ、その場所まで行進して運動競技をしていました。明治に入ると綱引き、徒競走、ダンスも加わり、その後に単独で運動会を開く学校も出てきました。大正頃になると種目も多彩になり、運動場の中央に高いポールを立てて「日の丸」を掲げ、万国旗を付けたロープを四方へ張って、その中で演技をしていました。これらのスタイルが運動会のルーツと言われているそうです。

話を今年の運動会に戻します。紅白の勝敗は、昨年に続き今年も白組の勝利となりました。毎年感じますが、結果よりも参加した皆さんが楽しく怪我なく終わり、主役である子供たちの良い経験と思い出になることが、運動会では大切だと思います。

この運動会は昼までに終わるため運動会での醍醐味のひとつ、家族や知り合いを囲んでのお弁当の時間はありませんが、恒例になった神楽さんや辻さんのカレーパンの出店があり、それを楽しんでおられる方、そしてそれをつまみに午前中のビールを楽しんでおられる男性陣も沢山いらっしゃいました。

今後この運動会をどのようにしていくかは、毎年考えていく必要がある訳ですが、子供たちの教育とその時代にしか味わえない体験のために継続できることを祈念いたします。最後になりますが、今年も、運動会が行われるまでにいろいろな方の尽力があり無事開催できましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

会員各位並びに関係各位

2017年（平成29年）11月1日
セブ日本人会理事選挙管理委員会
委員長：石田　武司

２０１７年末をもって現理事の任期（２年）が満了になります。つきましては新理事の立候補を下記の通り受け付けますので、ご案内申し上げます。

立候補者受付：１１月０１日（水）～１１日（土）

立候補ご希望の方は以下の申し込み用紙にてセブ日本人会事務所まで提出してください。
尚、理事定員（９名）を上回る応募者がある場合は選挙実施となります。
選挙告示日は11月１６日、選挙は１１月２３日木曜日の予定となっております。
選挙が行われる場合の詳細については後日連絡させて頂きます。

＊注．理事に立候補できるのは、セブ日本人会正会員の方で任期中活動可能な地域に居住予定の方、となります。賛助会員、家族会員、臨時会員の方には、被選挙権がありません。
新会長は新理事によりその中から選出し、各担当職務を発表します。
以上

---------- ーーーーーーーー切り取り ---------- ーーーーーーーーーーー

セブ日本人会理事選挙管理委員長殿

セブ日本人会理事選挙立
2017年　月　　日
2018年度セブ日本人会理事選挙に立候補します。
立候補者名：
現住所：
生年月日：
出生地：

★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール：info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。
★セブ島通信では、発行日（奇数月の月初）の１ヶ月前を締切として原稿を公募しております。

初めて海外で開催された国際紅白歌合戦

The International Red-White Singing Festival in CEBU

2017 年、8 月 6 日、AYALA　CENTER のイベント会場で、日本の外務省、観光庁、フィリピン観光省などが後援する国際紅白歌合戦が行われた。
紅白とはいっても男女で別れるのではないが、日本人は外国語で歌い、日本人以外の人たちは日本語で歌う、お互いの文化を尊重する歌の国際交流イベントとなっている。
このイベントは、東日本大震災のあった 2011 年、本国に帰ることの出来ない日本定住の外国人と被災した日本人を励まそうと始まったが、その後毎年、東京で行われているが、海外での開催はセブが初めて。

どうして、セブだったのか？

私が、セブに来たのは 4 年前。たまたま、ご縁のあった高校の英語研修の運営企画をすることになり、英語学校の視察に来た。英語の歌を 1 曲、発音や歌詞を含め完全マスターし、最終日には一般の人たちの前で発表するプログラムを作った。緊張の中、迎えた発表会だったが、彼らの堂々と歌う姿はとても頼もしく見えた。そして、その彼らを励まそうとフィリピンの先生たちが、隠れて練習していた日本語で歌を歌ってくれた。最後は、日本の高校生とフィリピンの先生たちが一緒になり、英語と日本語で歌う感動的なステージになった。仕事をサボって、拍手を送るフィリピンの人たちのおおらかさもあって、単なる発表会ではなく、心のこもった立派な『日本とフィリピンの歌の交流会』となっていた。その時、将来は、セブで国際紅白歌合戦を開催しようと心に決めた。

いよいよ、現実になったセブ島開催

2016 年東京での開催に、セブで働いていた日本人女性と一緒に、CEBU　MUSIC　LEARNING　CENTER（CMLC）のミュージックトレーナー中原信貴さんが、一参加者として参加した。
そして、イベント終了後、中原さんと 2,3 度ミーテイングを重ね、CMLC にパートナーとなってもらって開催することを決心した。
東京でもフィリピンの人たちは、イベント全体を盛上げてようと協力的だったので、セブでも何とかうまく行くのではないかと思った。イベントの公共性、CMLC の実績が認められ、運よく、ALAYA　CENTER の協賛が得られた。そして、中原さんはじめ、CMLC のスタッフやボランテイアの人たちのサポートで、準備も進んでいった。

私は、日本からの間接的なサポートが主で、実質的な運営は、オーディションの立会いからであった。40 組の申込があり、その熱気は日本以上であった。感動して、歌っている参加者の顔を見れないこともあった。選ばれたと連絡をもらって、涙ながらに喜んでいる参加者もいたのは印象的だった。
そして、後日、選ばれた参加者とのミーテイングを迎えたが、その際に、確認したのは、このイベントは優劣を競うものではないということ。あくまでも、CONTEST ではなく、FESTIVAL であることだ。
これは、2011 年の 1 回目の開催時から 7 年間一貫してのことだ。もちろん、個人賞はあるが、本当に大切なのは、日本人は外国語で歌い、日本人以外の人は日本語で歌いお互いの文化を尊重することである。

8 月 6 日、いよいよ、本番を迎える

紅白チームに分かれて、他のメンバーにも声援を送る雰囲気を中原さんや司会の人たちがうまく作ってくれた。出演者がお互いを励ましあう姿を見ることはとても微笑ましかった。
フィリピンと日本の国歌斉唱からはじまり、22 組がイベントを盛上げた。
MYTV のテレビの撮影もあり、出演者もそのステージの雰囲気を楽しんでいた。
フィリピンの人たちが、日本の歌をあんなに感情を込めて歌っている姿を見るのは日本人にとっては、とても嬉しいものだった。
日本人の参加者は、長くセブに暮らす人たちが多かったが、皆さんバックグランドが様々で、ビザヤ語で歌う人までいて、セブの人たちからも喝采を浴びていた。
ゲストの日本舞踊やセブの合唱団、孤児院の子どもたちによる『翼をください』なども感動的だった。
優秀賞には、秦基博の曲を弾き語りで歌った、中華系フィリピン人の Kenichi Uang さんが選ばれた。セブ - 東京往復航空券を副賞として受け取った彼は、フィリピン代表として、10 月 9 日の東京開催にも参加する。他の出演者の歌のレベルも相当なもので、誰が賞をとってもおかしくない内容だった。歌のレベルは 1 回目からすでに東京を超えた。

審査員をつとめてくださった、ホテルオーナーの辻さん、日本語が流暢なアレックスさんもまた来年も楽しみだねといってくださり、このイベントはこれからも続いていくであろうと感じた。

最後になりましたが、日本人会の皆様はじめ、様々なご支援、ご助言を下さった皆様には、心より感謝しています。
また、来年も、セブでお目にかかることを楽しみにしております。

IRWS website: https://www.irws.org/cebu/
Cebu Music Leaning Center website: http://cebumusic.ph/2017/

（文：国際紅白歌合戦発起人・代表　宮崎計実）

本大会結果報告

2017 年 10 月 9 日、7 回目を迎える観光庁・外務省、フィリピン政府等が後援する国際紅白歌合戦が都内で行われた。
アイドル、ゴスペル、KIMONO ファションショー、恋ダンスを踊る日中混合チーム、アジア、南米各国の歌自慢を含め、総勢 200 名以上が舞台を盛上げた。

舞台裏で、別のチーム同士が、交流したり、一緒に写真を撮ったりしている姿を見ることも多くなってきた。日本に住んでいても外国人同士でも、国が違えば、特別に交流することもあまりないが、日本語を媒介として、『日本人は外国語で、外国人は日本語で歌う』、今回 500 名を集めた歌の国際交流は、段々とその理想形に近づいてきているように思う。

東京スクールオブミュージック（TSM）の高校生アイドルグループの登場から始まり、フィリピンセブ島で行われた国際紅白歌合戦を代表して参加した、KENICHI　UNAG さんの弾き語りは圧巻だった。

その後、ミャンマー、ブラジル、台湾、日本人、フィリピン女性とインド男性のデュエット、と続いたが、審査員が迷うほどどの参加者もレベルが高かった。
そして中国語学習サークルが元になって始まった、グループによる今年、流行した『恋ダンス』『PPAP』は、世界の子供たちにも大人気。在日中国朝鮮族の女性会の子供たちの歌声は会場を和やかな雰囲気に変えた。

留学生中心のアジア各国の KIMONO モデルの FASHION　SHOW も大きな注目を浴びていた。演出したのは、来日 20 年以上になるイギリス人大学講師で KIMONO 研究家の SHIELA　CLIFF さん。初体験の参加者もみんなとてもリラックスして、モデル気分を体験していたようだ。

ペルー人女性の演歌を、男性はスペイン語と日本語で結婚式の定番。『乾杯』を歌って盛上げた。NHK の教育テレビでお馴染のロシア人声優の歌、TSM のゴスペルグループの熱唱で歌合戦本編は終了した。

観光庁長官賞には、セブ島から参加した、KENICHI さんが獲得した。彼は、8 月 6 日のフィリピン開催以降、Cebu Music Leaning Center でヴォイストレーニングを受け、精神面でも強くなり、余裕を感じさせるほど、堂々とうたっていた。
今回も、NHK 国際放送の取材が入り、１１月初旬に英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語で放送される予定で、インターネットでも一定期間聞けるようになっている。
２０１８年もセブ島でも今年に続いて開催される予定。

国際紅白歌合戦実行委員会
宮崎計実
中原信貴（Cebu Music Leaning Center)

第7回 レイテ島慰霊

日本人会 安藤尚子

レイテ島は、大戦当時の人口約１００万人、四国の半分程の大きさの島です。島の中央には標高１４００ｍほどの脊梁山脈が連なり、マゼランが最初にフィリピンに姿を現したのがレイテ湾でした。１９４４年１０月２０日午前１０時、アメリカ軍は艦砲射撃支援のもとにレイテ島に上陸を開始します。レイテ島の戦いで、この島は大東亜戦争最大の決戦場となり、日本軍将兵の戦死者が最も多い流血の島・殺戮の島となりました。今年もこの日に合わせ、セブ・レイテ慰霊奉賛会 石田武禅氏と１２人が第７回レイテ巡霊に同行しました。当初、米統合幕僚本部は日本軍との決戦をフィリピンではなく一気に台湾、日本本土攻略を含む計画をしていました。しかし、米陸軍ダグラス・マッカーサーが強硬に反対します。１９４２年第一次フィリピン戦で日本軍に追われオーストラリアに逃亡したマッカーサーにとって、その屈辱を晴らす為にはフィリピンで勝利者となる必要がありました。また、マッカーサーの父のアーサー・マッカーサー・Ｊｒは、米比戦争に義勇軍師団長として参加、１８９８年のマニラ戦争で少将に昇進します。米比戦争では初代フィリピン大統領エミリオ・アギナルドを生け捕りにし、サマール島・レイテ島の島民の皆殺しを命じ、２０万人から１５０万人のフィリピン人が犠牲となりました。ちなみに、現在のロドリゴ・ドゥテルテ大統領は虐殺された島民の末裔にあたります。後にアーサー・マッカーサー・Ｊｒはフィリピン駐留米軍司令官となり、実質的なフィリピンの植民地総督となりました。その関係で、息子のマッカーサー自身フィリピン財閥とも深く結びつき、フィリピン経済界の一人となっていたため、マッカーサーのフィリピンへの執着が伺い知れます。彼は、フィリピン人への道義的理由を掲げ口「アメリカに忠実なフィリピン人が、日本軍に捕らえられている。フィリピンを解放する道義的責任と、アメリカの威信がかかっている」と主張。マッカーサーはルーズベルトとハワイで会談し、マッカーサーが次の大統領選挙に出ない代わりに、再選を狙うルーズベルトがマッカーサーのフィリピン奪回案に賛成すると言う取引がされたと言われています。当初、米軍がフィリピン戦で上陸を予定していたのはミンダナオ島であり、日本軍もここを予想していました。

しかし、レイテ島には日本軍の建設した飛行場が５つあり、また日本軍の守備が手薄なことが判明。米軍はこれを占領しルソン島攻略の基地にしたいと考え、時期も１２月から１０月に早められ、レイテ島に変更となりました。フィリピン奪回そのものが、直前に決定されたものでした。戦火が広がると、日本軍は陸上・海上で米軍に敗退し消耗した軍事力を補強する為に、将兵が次々と投入していきました。レイテ島に投入された兵力は、最終的には８４・０００人に達します。そのうち８万人の将兵が命を落としたのですから、レイテ戦がいかに過酷であったかが窺えます。

１９４４年１０月２０日、７００隻の米艦艇と２０万人の米兵がレイテ島に押し寄せます。上陸地点のパロには「マッカーサーランディングパーク」あり、毎年盛大な記念式典が開催されています。そこには、上陸してくるマッカーサーを先頭に、亡命政権の大統領オスメニア、閣僚のカルロス・ロムロの像があります。北方３０ＫＭにあるタクロバン市はレイテ島の州都です。米軍に占領され日本軍は夜間の斬り込み攻撃を繰返した町です。日本陸軍司令部と一緒にここに置かれていた守備隊が第１６師団（垣兵団）２万人でした。この師団は京都を母体とし、後に９９パーセントがレイテ島で戦死しました。国際合同記念碑公園に「京都垣兵団建立」慰霊碑があります。主にレイテ島に追加投入されたのが第１師団でした。これは歩兵第１連隊（東京）、歩兵第４９連隊（甲府）、歩兵第５７連隊（佐倉）を中核とし、満州に配置されていた部隊をレイテ決戦のために転用しました。昭和１９年１１月１日、第１師団 片岡師団長以下１３・００００名が２回に分けてオルモックに上陸します。第１師団の輸送船４隻は、奇跡的に上陸できましたが、１１月５日から第２６師団（名古屋）がオルモックに上陸したときは、１万の兵が上陸できただけで、武器食料の殆どは輸送船とともに沈められてしまいました。その後、台湾からの第６８旅団、セブ島から第１０２師団、ミンダナオから第３０師団、ルソン島から第８師団が増援され兵力は８万人を数えていましたが、物資の陸揚げは殆ど出来ない状況でした。そして、上陸した第１師団はオルモックを北上。与えられた任務は、レイテ島北部カリガラ平野に進出し、米軍を駆逐するというものでした。対する米軍の任務は、オルモックの日本軍の拠点を攻略し、日本軍を無力化するというものでした。それ故、日米両方ともここは互いに譲れない決戦場だったのです。第１師団が目指したカリガラ平野はすでに米軍の制圧下にあり、協力すべき第１６師団は米軍に追われて山中に退却していました。そんな情勢下で第１師団は、もう少しでカリガラ平野に至る手前のリモン峠で米軍と激戦を交える事となります。リモン峠での戦いはレイテ戦最大の戦いとなりました。リモン峠の山頂には「歩兵第５７連隊」慰霊碑があります。

□第１師団の先頭は、歩兵第５７連隊でした。西南戦争も戦った由緒ある連隊です。リモン峠の戦いにおいて歩兵第５７連隊は、圧倒的に優勢な米軍の攻撃に、闘志と白兵戦闘の技術を生かし、支えられるはずのない北方戦線を１０日、錯綜した東方山嶺を３０日以上守り抜きました。１２月２１日に転進命令が出た時、歩兵第５７連隊の兵は２・５００名のうち９１名しか生存していませんでした。リモンの集落を抜けて、南峠に差し掛かる前にあるリモン川は、兵士の流れ出る血で赤く染まった為、血の川とも呼ばれています。米軍のヴァーベック大佐は日本軍との戦いの模様を、情報参謀部への報告書の中で記しています。その内容はリモン峠における日米両軍の戦いがいかにすさまじいものであったか、また歩兵第５７連隊の戦いぶりがいかに勇敢なものであったが伺い知れます。「敵と交戦した者は、その見事な戦闘ぶりによって感銘を受けた。向こう見ずな攻撃、無益な犠牲や一般に戦術の初歩に反した行動は見られなかった。敵のもっとも顕著なる特徴は射撃の組織的なこと、あらゆる武器の使用の統制にある。敵の射撃は例外なく最大の効果を発揮する瞬間まで抑制されていた・・・午後遅く抵抗を強化し、日暮れ前に反撃することにより、敵は一日のうちわが攻撃部隊の戦意と弾薬が尽きかけている時に、最も強力な銃火を浴びせて来る。壊滅的打撃を企図し、わが方が夕暮れまでに陣地を固めるのを妨げる・・・」多くの戦死者を出した第１師団は、レイテ島から隣のセブ島へ更に転進する計画が実施されます。残存兵およそ２・０００名、７５０人ばかりが選ばれてセブ島へ渡ります。しかし、セブ島へ渡った兵士らも、現地で敵やゲリラ兵と戦いそこで多くの命を落としました。敗戦後生きて日本の地を踏んだ兵士は、第１師団では１３・０００名中レイテ島からの生還者は５０名でした。

オルモックを南に行くと工兵第一連隊６９０名（全員戦死）の「工兵碑」慰霊碑があります。この部隊は軍用道路を作る部隊でした。脊梁山脈を越えて進撃するための道を切り開く作業や、オルモック街道を確保する作業にあたっていました。しかし後方支援部隊であるにも関わらずこの部隊は全員戦死しています。

リモン峠の北峠を下ると、野砲兵第一連隊１・９００名の「砲一会 鎮魂」慰霊碑があります。この連隊は３６門の砲を持っていましたが、砲弾は不足していました。日本軍に偵察機はなく、正確な砲撃も出来ぬ戦況下で、日中は米軍偵察機に発見されぬよう偵察機のいない僅かな時間をみては砲撃し、偵察機が近づくと偽装網をかけなければなりませんでした。「一発撃つとね、アメリカから２００発くらい返って来たんですよ」と生存者の証言です。レイテ島にあるカンギポット山（観喜峰）は、標高３５９ｍ足らずの山ですが、日本軍１０・０００名が立てこもり全滅した山として有名です。麓には「平和公園の碑」慰霊碑があります。日本軍は駆逐艦による撤退作戦が実行されましたが、既に１００隻あった駆逐艦は当時４０隻になり全兵力の撤退は不可能な状況でした。１２月１９日レイテ島の残存部隊はカンギポット山に集結し持久戦の構えとなります。実際には組織的な日本軍の行動は終わり、補給のない中、飢餓・栄養失調・マラリア・赤痢・ゲリラからの攻撃に苦しみながら生き残りが繰り広げられることになりました。現地のフィリピン人ゲリラは、日本兵を捕らえてはアメリカ側に引き渡しました。日本兵一人につき２０ペソの償金が出ていましたが、容赦なく殺された兵士も多かったそうです。カンキポット山一帯に残された兵士のその後の消息は殆ど不明のため「戦死の公報」の大半は、カンギポット山にて死亡として処理され、日付も昭和２０年７月１日あるいは７月４日とひとまとめにされまオルモック市街の私有地に「コンクリートハウス」があります。唯一、当時の戦火を伺い知れる建物です。当時は周囲に塹壕もあったそうですが、現在は埋め立てられています。リモン峠へ向う道路沿いにあることから、リモン峠の第５７連隊の部隊が後方から攻撃を受けないよう、米軍の北上を食い止める為の最後の砦だったのではないか思います。オルモックの守備隊の主力は、第２６師団 独立歩兵第１２連隊 第３大隊（大石大隊）約２５０名でした。米軍は１２月１０日にオルモックに侵攻、建物に残る無数の弾痕や砲弾後は１３日の砲撃によるものだと言われています。篭城していた部隊は１４日に壊滅しました。レイテ島にある慰霊碑は９４ヶ所あまり 残念ながら全ての慰霊碑に手を合わせる事は出来ませんでしたが、約４００Ｋｍを３日かけて慰霊をしました。今回は、台風の影響で、最初の慰霊地カンギポット山麓「平和公園の碑」まで悪路が行く手を塞ぎました。山道を進む為、雨が降ると道がぬかるみなかなか思うように車が進みません。ドライバーの腕と運に任せる… が、とうとう前にも後ろにも進まなくなってしまいました。こういう場合、皆で降りて車を押すべきだと思うのだが、そこはまずドライバーに任せて慰霊。残りの道を徒歩で、足は泥まみれになり前進あるのみ。兵隊さんたちも雨が降れば全身ずぶ濡れ、泥だらけになりながら行進、戦闘を行なったのだろう。そんな思いで、日本ならば迷わず諦める道をひたすら進みました。一時的に止んだ雨、なんとか慰霊を終えて戻ると、ドライバーは泥だらけになりながら悪戦苦闘をまだ続けていました。この泥道は水分を吸い雪道のように滑るのです。雪の上を走ってるような感じで、エンジンをふかせばスリップしてケツを振ったワゴン車は全く手に負えません。とうとう数人の日本人も手を借し、皆で押したおかけでぬかるみから無事に脱出できました。（見てるのはホント楽ですｗ）天候もさる事ながら、慰霊の時はタイミングよく雨足が弱まり、無事慰霊を果たす事が出来ました。未だ日本へ帰還出来ず、レイテ島に眠る日本将兵の英霊８万人に合掌

セブ日本人会主催「企業見学会」

セブ日本人会副会長
藤岡頼光

10 月 3 日に常石造船さんの進水式を見学させて頂きました。セブ日本人会が主催する企業見学が行われたのです。30 名近くの会員さんが参加したイベントでした。
今回は 3 万 5000 トンの船の進水式だったのですが大迫力でした。常石造船さんにとっては小型の部類に入るというのですからスケールの大きさがけた違いです。セブを代表する日系企業を見学できとても有意義なイベントだったと思います。
【常石造船さんとは】
常石造船さんの歴史は古いです。1903 年(明治 36 年)に神原勝太郎氏が広島県福山市常石に造船所を作ったことが始まりです。現在では日本の広島県やフィリピンのセブだけでなく中国浙江省や南米パラグアイにも生産拠点があります。
その中でもセブのバランバンにある TSUNEISHI HEAVY INDUSTRIES, Inc. さんはグループの主力工場になっています。アジアに向けた生産工場のマザー工場の役割を担っているそうです。
現在は船を作るドックを 3 基と修繕用のドックを 1 基持ち年間２０隻の船を作っています。3 ～ 18 万トン級の船を最大 30 隻作れる建造能力だそうです。
【造船大国日本】
昔は造船と言えば日本でした。長い間世界世界一の造船大国だったのですが最近は韓国、中国に抜かれて 3 位に甘んじています。しかし、技術力ではいまだに他の追随を許さないダントツの 1 位なのです。常石造船さんのフィリピン工場は日本品質の船を安く作れるので人気があります。
【セブに工場を作った 6 つの理由】
１：安い労働コスト
２：日本からのアクセスが良い
３：教育水準が高い
４：自然災害が少ない
５：キリスト教徒で穏やか
６：よいパートナー企業がいる
以上の利点を生かし現在では常石造船グループ全体の 4 割の船をセブで作るまでになっているそうです。
【世界第 4 位の造船国】
じつは、じつは、あまり知られていませんがフィリピンは世界大 4 位の造船国なのです。そしてフィリピンで作られる大型船舶の半分は常石造船さんのセブ島工場から作られています。常石造船さんのフィリピンへの貢献は計り知れません。
【長期的な視点で町ごと作る】
常石造船さんの凄いところは地元への貢献です。今から 20 年前の 1994 年にセブに進出してきてから、今では 1 万人の雇用を生んでいるセブ島を代表する企業になっています。そして、1 万人の雇用を生んでいるだけでなく町に学校を建てたり、街の生活に欠かせないマーケットを作ったり、はては病院を寄付したりしているのです。
【企業見学会】
セブ日本人会では定期的にセブで活躍する企業の見学会を行っています。前回は太平洋セメントさんにお伺いをさせて頂きました。今回は常石造船さんです。朝 7 時にセブ日本人会事務所がある市内を出てバスと車 2 台に分かれて向かいました。9 時半ごろ到着して常石造船さんの説明を受け進水式を見学させて頂きました。
【盛大なセレモニー】
進水式の前にセレモニーがありました。地元の小学生によるダンスと、楽器演奏です。小雨が降る中でしたが一糸乱れぬ演技には船主さんも感動したと思います。たぶんお父さん、お母さんもこの工場で働いているのでしょう。地元企業を誇りに思っているように感じました。
【進水式】
直前まで晴れていたのですが、進水式は雨の中開始されました。私たち見学者はテントの中から見守ります。大迫力のイベントです。常石造船さん曰く小さな船ですが 35000 トンと言うと 20 階建てのビルが横たわっているようなものです。まじかで見ていたので凄かったです。
合図とともにくす玉が割られました。紙吹雪が舞う中、音楽が流れ、船がゆっくりと動き出します。感動のイチシーンです。船が海に滑り出し無事に進水式は終わりました。
【工場見学】
進水式の後は工場見学が行われました。写真撮影は禁止でしたがたくさんの船を同時進行で作るシステムは凄かったです。船は下からいっぺんに作っていくと思っていたら違いました。ブロックごとに作られ、最終的にすべてをつなげて一つの船になるのです。敷地のあらゆるところで船のパーツが作られています。それぞれのパーツがビルのように大きいので大迫力でした。
【美味しい日本食】
工場見学の後、昼食をとらせて頂きました。社員寮と仰っていましたがホテルのように素晴らしい施設での食事です。日本人のスタッフが多いので社員寮の食事は日本食が食べられます。ここはフィリピンなのかと思うほど美味しい日本食です。昼食を食べただけでも価値があったと思います。
【学校見学】
食事の後、工場を後にして常石造船さんが建物を寄付した学校を見学させて頂きました。サン・ホセ大学附属の幼稚園から高校までの学校です。セブには珍しいくらい施設が整った学校でした。今ではここを卒業した学生が常石造船さんで働いています。教育から就職までサポートしているのですからスケールが違いました。
【市場の見学】
最後は常石造船さんが建物を提供した地元の市場を見せて頂きました。市場は生活で欠かせない施設です。地元の人たちでにぎわっていました。
【まとめ】
今回セブ日本人会が主催する企業見学会に参加させていただきとても感動しました。
日系企業がフィリピンに溶け込み、フィリピンに貢献し、フィリピン人に愛されているのです。常石造船さんの地元への密着度の高さは凄かったです。セブ島にこのような企業があることが同じ日本人として嬉しく、そして誇らしく思えました。
末筆ながら、この場をお借りして企業見学会を快く迎え入れて頂いた常石造船さんの皆様に感謝します。
ありがとうございました。

秋の日本人墓地墓参のご報告

シニア担当理事

セブ日本人会が管理・運営するリロアンのセブ日本人墓地で９月２４日（日）、秋分の日に合わせたお墓参りを行い、無事終わりました事をここに報告致します。
雨の日が続いており心配していましたが、幸い天候にも恵まれ、石田元日本人会会長の心のこもった読経の元、セブ領事事務所の鶴岡所長ご夫妻、降旗領事ご家族を始め、すみれ会の方々にもご参列して貰い、総勢 17 人の方々にご焼香をして頂きました。
永眠されている方々も、さぞ喜んでおられたと思います。
お忙しい中参列して頂いた方々、どうも有り難う御座いました。
セブ日本人墓地の生い立ち。
セブ市内のロレガ・サンミゲール市営墓地内に戦前から有った日本人墓地に、不法占拠者が住み着き、墓石を掘り返されて無残な状態だったのを見た、セブ日本人会 5 代会長の高橋正則様がご自身で所有されていた Calero Memorial Cemetery の土地を 1998 年に寄付して下さる。
その後セブ日本人会が 1 区画を追加購入し、現在の長方形と土地となりました。そして 1999 年調布市延浄寺の網代正孝住職に来て貰い、「魂の移転」の宗教手続きと「読経」をして頂く。網代住職によると「墓地の移転は、旧墓地の墓石やお骨の移動は必要なく、新しいお墓で墓地を移す読経をすれば魂の移転は済む」との事です。
この墓地移転の読経により、昭和初期からセブに永眠されていた日本人の魂が、リロアンのセブ日本人墓地に移ったのです。
その後は、すみれ会の皆様にお墓の掃除や、お参りをして貰っていましたが、2006 年に当時の作永領事と石田日本人会長ご尽力で、セブ日本人会が管理するようになりました。又、前日本人会理事の方々の呼びかけで、沢山の方々からご寄付を頂き 2013 年に立派な墓地が完成しました。関係者の方々には、深くお礼を申し上げます。
近年では昨年９月に亡くなった日本人会会員の中村さんが埋葬され、10 名が永眠されて
おられます。
セブに住む邦人が増えるに従い、セブ日本人墓地に永眠を希望される方が増えると思われる
ので、日本人会としてはセブ日本人墓地利用規定に沿って、故人が安らかに永眠出来る墓地の運営に、今後とも務めて参ります。

神様の宝石でできた島　黒田慎一郎

14 年の滞在を経て、日本に帰国をすることになった。セブでの年月を振り返ると、セブ島通信全部を埋めてしまいそうな勢いだ。それだけ海外・セブでの生活は日本で経験出来ないような出来事の連続だった。来た当時は 28 歳、ネットもまだまだ一般的ではなく、観光客や働き盛りの駐在員は良く見かけたが、20 代の若者日本人は貴重で、同年代の現地在住の日本人を見かけると声を掛けたり、逆に掛けられたりするくらいで、何とか繋がりを探したものである。また、セブの発展も目覚しく、ネット含め、買い物（情報と物資）は比べ物にならないくらい便利になったが、一方で物価上昇や渋滞は酷くなり、目に見えない所ではセブアノ（セブの人たち）、特に都市部の中間層以上の若い世代は、ひと昔前に比べると人懐っこさや、親切さが明らかにダウンした。セブアノも昔はもっと優しかったが、それは便利さと引き換えで失われて来たのか、まぁ、考えてみたら日本も同じなのかもしれない。
「フィリピン人はどうして怠け者（Lazy）なのかわかるか？」
青年海外協力隊の一員としてセブに到着して 1 ヶ月ほどが経った頃、ボクは当時の職場だった農業省のフィリピン人女性のボスに問いかけられ、今となっては自分がなんと答えたかは定かではないが、答えに窮して当たり障りのない返事をした記憶が残る。そしてそのボクの当たり障りのない回答に、ボスはボクの目を見据え、諭すように言った。
「いや、違う、ココナッツの木を見なさい、実がなっていて収穫しようとして近づいたら、上から落っこちてきて頭に当ったら怪我するだろ？まして実を取ろうと思って登ったら落っこちて死んじゃうかもしれないじゃなか。実が落っこちてくるのを待てばいいんだよ。わかるか、フィリピンは豊かなんだよ、はっはっは」
今思えば、発展途上国に人助けと思って乗り込んできた前のめりの若造をいなそうとして投げかけてくれたのかもしれない。その時はあまり気にしてもいなかったやり取りだが、14 年の歳月が立ち、その間、日系企業への就職、フィリピン人と結婚をし、セブで 3 人の子供にも恵まれた今、彼女のこの言葉は『ズキューン』と的を射抜いていたなぁ、としみじみと感じさせてくれる。
セブに来る前に農業資材を扱う会社で働いていた。その時農家さんから聞いたのが、水路や畦道の整備から、水入れ、代かきの段取りをして水田農家さんが迎える田植えの話だったり、とにかく時間勝負の野菜農家さんの収穫の話。そう、親戚や集落みんなで段取りを組んで、天気を見ながら決められた時間通りに進めないと、収穫を得られず、厳しい冬を乗り越えないのが日本。対してフィリピンはまず冬がない。ほっといてもココナッツの実はなるのである。つまり、家族やご近所さんで、ココナッツの木の周りで実が落ちるのを待てば良い。待っている間は、その場にいる誰もが傷つかない噂話しや、踊りや歌を披露し合う事が大事なのである。時代は現代になっても、こう言った「農」の気質は脈々と受け継がれているのでしょう。
セブを中心に、セントラル・ビサイヤ（セブ領事館のエリア）での登録在留邦人数が 3,000 人弱だとして、登録をされてない方も含めその倍と考えても、ここで我々日本人は完全にアウエーである事実はどう反論をしてひっくり返そうとしても難しいでしょう。長かった非植民地時代、大土地所有性が残る中でのフィリピン独特の階層社会で、我々日本人はどちらかと言うと「ちやほや」してもらえる場面も多い。特に利害関係が発生する前に帰国する短期ー中期滞在者の中では、フィリピーノ・ホスピタリティーにはまってしまうのも自然の流れでしょう。ただ、我々長期滞在者はそうもいかない。フィリピン人の中で生活をしていこうと思えば、ココナッツの木の周りで車座の中で一緒に座る必要は無くても、少なくともその車座を乱すことになると、そこのメンバーは排除する動きに出るだろう。セブでの年月を振り返ると、最初に見上げたココナッツの木は協力隊の職場であったし、その後はご近所の木、同じ年代の日本人仲間の木、就職した日系企業の木、結婚後のフィリピンファミリーの木、役員を仰せつかった日本人会 / 商工会 / 補習校と言った日系コミュニティーの木、最後に 5 ラウンドだけ経験させてもらったゴルフの木、、、多くの木を見上げてきた気がする。輪に入ったときは既に大木になっていた木もあったし、家族なんかは苗木から育てて、未だに試行錯誤で生育途中だ。
帰国を目前にして、14 年前に最初にボクが加わった「木」のメンバーと再開する機会があった。協力隊の職場のメンバーや、来た当時同じ世代の日本人友人たちは送別会も開いてくれた。もちろん既にセブにいないメンバーや、鬼籍に入った先輩もいる。今回、帰国を機に、皆で家族を連れて集合できたのが感慨深かった。この 14 年間で関わってきた木は数知れず。それも、日本でフツーにサラリーマンをしていたら、とても近づく事すら出来ない、貴重な「木」ばかりである。木の成長に寄与できた木もあれば、ボクのせいで枯らしてしまった木もあるかもしれない。ボクの日本行きのフライトもいよいよ近づいてきた。セブを離陸して上昇していく飛行機の窓から自分が関わってきた木が見えるに違いない、どんな風に見えるのか、楽しみだ。
今回、ボクは先に日本へ引越しをして、来年 3 月頃に家族を迎えに来る予定でいるので、それまでは子供らは補習校の生徒だし、いろいろ皆さんにお世話になることもあると思う。セブでは皆さんにお世話になり、改めて人間 1 人で生きていけない事を実感させられた。今までの皆さんからの好意に感謝すると同時に、また今後も日本なりどこかでお会いした際には、是非セブの近況をお聞かせくださいな。セブはボクに取っての第二の故郷。特に、妻と出会ったバンタヤン島は、ボクに取ってまさに「神様の宝石でできた島」なのです。１４年間、ありがとうございました。Daghan salamat sa Cebu ！

便利な ID カード

セブ日本人会では 2 年に 1 度会員の皆様に配布している ID カードを更新しています。ID カードは協賛店 / 協賛ホテルからかなりお得な特典を受ける事が出来きます。更に緊急時の連絡先や簡単な身分証明としても使用可能です。会員にとってはかなりのメリットを受けれますので　是非皆様 ID カードの手続きにご協力ください。

未だ ID カードの手続きをされていない会員の方もこの機会に取得されることをお勧めします。ID カードの更新、新規は無料です。紛失などで再発行の　場合は実費費用負担をお願いしています。負担額は 200 ペソです。

セブ日本人会　協賛店 / 協賛ホテル一覧

■食材店
町屋マート

■ホテル・ビーチリゾート
Movenpick Hotel Mactan Island Cebu
Shangri-La's Mactan Resort and Spa Cebu
Marco Polo Plaza Cebu Hotel
Waterfront Cebu City Hotel
Waterfront Airport Hotel
Waterfront Insular Hotel Davao
Jpark Island Resort & Waterpark Cebu
Maribago Bluewater
Blue water SUMILON ISLAND
Blue water PANGLAO BEACH
Lubi Resort Santander
Anemone Resort and Tours Cebu
Cebu City Marriott Hotel

■ダイビング・マリンスポーツ
アクアマリンオーシャンツアーズ
(マリンアクティビティ)

ブダンディン・マリン・ダイバー

アクアバディス
エメラルドグリーン・ダイビングセンター
　マクタン店
　サンタンダー店
　モアルボアル店
　ボホール店

■飲食店
【マンダウエ市】
神楽（和食）
らーめん野武士（ラーメン）
オイスターベイ（シーフード）
スキレット（和洋食）
HAPPY SUMO(和食)
Tao Yuan(中華料理)
松之屋 (和食)

【マクタン島】
だるま（和食）
空海（和食）
夜桜（和食）
マリバゴグリル（フィリピン料理）
花魁（和食）

■飲食店
【セブ市】
遊々亭（和食）
はる / 旧さっちゃん（お好み焼き）
　タランバン店
悟空（和食）マボロ店
ミッキーズ（ケーキ）
Q 兵衛（和食）
Jazz'n Bluz（レストバー）
TYMAD BISTRO（フランス料理）
夢屋喜兵衛（和食）
AMPERSAND（西洋料理）
寿や（ラーメン）
ラーメン空 / やきとり備長炭
秋田 /AKITA (和食)
Mio Cafe and Restaurant
(フィリピン料理)
韓陽苑（焼肉レストラン）

■飲食店
【セブ市】
幸 全店 (日本食レストラン)
麻布（日本食レストラン）
一カ茶屋（日本食レストラン）
Canvas Bistro Bar & Gallery(洋食)
Circa 1900(洋食)
一路発 (ラーメン)
但馬屋 (焼肉)

■美容・健康
ワウ・セブ歯科医院（歯医者）
スマイルデンタル（歯医者）
Japanese Tea Lounge(マッサージ)

■レジャー・スポーツ
セブトップ
（遊覧飛行、体験飛行）

■その他
誰でもヒーロー (ボランティア)
NPO セブンスピリット /Sevnsprit（ボランティア）
ジャパン支援センター（退職者ビザサポート）
QQ English (英会話学校)
D'Tratou Cebu(翻訳業務)
Sky Water Park(プール＆レストラン)
Wabi Linkage Corporation(翻訳業務)

■旅する
フレンドシップツアーズ

割引き、もしくは特別サービス御座います。
必ず会員証をご持参ください

広告募集中です。セブ島通信の発行費は広告料金でまかなっています。ぜひご協力ください。

【広告代金】
① 3 分の 1　2 段　800 ペソ
② 2 分の 1　2 段　1,200 ペソ
③ 3 分の 2　2 段　1,600 ペソ
④ 全幅　2 段　2,400 ペソ

【お願い】
① 最低 6 ヶ月は継続してください。
② この 3 号分は同一原稿です。
③ お支払は前払原則です。
④ 完成した原稿をお持ちください。

【お申込みは】
セブ日本人会事務局
電話：032-343-8066
FAX：032-343-7663

D' Tratou Cebu Translation & Travel Assistance

・・・日英翻訳・・・

(横浜市立大学文理学部英文科卒 **鈴木了**)

(Document Translator): Rio Suzuki [MEL in Yokohama City Univ.]

*公文書 / 証明書 (Official Documents / Certificates) *契約書等 (Contracts / Agreements)

*仕様書 / マニュアル (Business Technical Specifications)

・・・遺族年金申込手続・・・

(Procedures for Pension Benefits to a Filipina family)

***Cedula, *BIR Cert, *Barangay Cert, *Child ID, etc.**

(日本国での担当：**中原周太郎**　行政士)

Please feel free to inquire directly!

・・・法律相談・・・

(Legal Advice & Assistance)

フィリピン国弁護士による諸手続・法律相談

(会社設立 (SEC・DTI)(Mepz 含む) 養子縁組・離婚・その他訴訟)

(担当：弁護士　ダニロ シノブハン　日本語できます)

◆ Inquiry: Cell: 0917-7171-839. Tel & Fax: (032)263-0614
◆ Email: suzkicebu@yahoo.co.jp ◆Website:www.cebu-mactan.jp
www.mactanboy.com

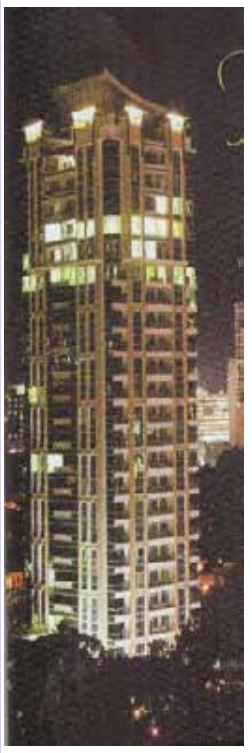
広告掲載募集

★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール：info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。

★セブ島通信では、発行日（奇数月の月初）の１ヶ月前を締切として原稿を公募しております。

パジェットコンド・賃貸 (日本人所有) のご案内

最高のロケーション (アヤラデパートまで徒歩７分)・フィットネスプール、TV, 調理器具、ダブルベッド、エアコン、ソファー、窓カーテンすべての生活用品が完備しています。新築２年のスタジオタイプ。



契約書は日本語、日本での支払い可能
（日本人への賃貸希望）

--- 問い合わせ ---

セブでの連絡先・現地案内 (無料) は **263-0614[鈴木]** にどうぞ！契約詳細等は大阪市在住の女性・竹田さん (所有者) に直接お問い合わせ頂きます。

--- 賃貸料 ---

[参考]:最小期限１年、月４万５千ペソ、長期契約は割引。共有料金等は直接ご相談頂きます。

※その他リロアン町高級団地「ドロス不動産」に家屋所有。竹田さんの母親の隠居家 (2F) ですが、フィリピンメードだけだと不安なので一緒に住んでくれる日本女性 (夫妻可) を探しています。寝室４部屋あり３部屋、その他は自由にお使いいただけます。家賃格安。ご相談ください。

◆ セブの問い合わせ：　0917-7171-839.（032)263-0614
◆ Email: suzkicebu@yahoo.co.jp　www.cebu-mactan.jp

FOR SALE

アルタビスタ・ゴルフ・アンド・カントリークラブの B クラスシェアを販売希望です。外国国籍の方向きです。
価格：₱ 450,000 (交渉可、税別)
必要経費等は購入される方持ちになります。

Share only. 'B' Class at Alta Vista Golf and Country Club - Good for foreigners to purchase.
₱ 450,000 negotiable.
The price indicated is net - all expenses are for the account of the buyer.
Contact: Henry 0917-720-7881
(連絡先)

エメラルドグリーンダイビングセンター
Emerald Green Diving Center

☆★ ジンベエツアー開催 ★☆

日本人インストラクターが5人常駐!!ダイビングが初めての方やお一人で参加される方にも安心。少人数、安全そしてきめ細かなサービスで快適なダイビングを約束♪またセブ島の南サンタンダー、モアルボアル、ボホールにも支店（もちろん日本人インストラクター常駐）がありますので、マクタン以外の海を潜りたいダイバーの方は、ぜひこちらも潜ってみてはいかがですか？

電話：(032)495-7728 or 495-8372
携帯：0917-321-6349(日本語可)
場所：Anemone Resort 内
Buyong, Maribago, Lapu-lapu Cit,

特典　セブ島通信を見て事前にダイビングをご予約された方オリジナルTシャツ贈呈＆ランチ無料！
プロモ期限：当セブ島通信発行年月より１年間

CJSだより

Since 1983, Cebu Japanese School

【運動会】

十月八日に毎年恒例のセブ大運動会が開催されました。

午前七時四十五分より開会式が行われ、ラジオ体操の後、玉入れ、綱引きなど定番の競技が行われました。日本では定番の競技も、初めて参加する生徒もおります。日本の運動会を体験することで、少しでも日本らしさを感じてくれることを期待しています。

心配された天候にも恵まれ、十一時半には無事に終了しました。

年々、補習校の生徒が減少しておりますが、今年は父兄の方をはじめ、企業の方の参加もあり、たいへん盛り上がったように感じました。すべての競技が参加できるようにしており、もっと多くの人に参加してもらえたらと思います。

【運動会の思い出】

小学三年　内藤　陽真

今年の運動会の思い出は、障害物競走です。なぜかというと、一位をとれたからです。さいしょはふくろの中に足を入れて歩きます。そのとき少しおくれを出してしまいました。次はスプーンにボールを入れて歩きます。さらにフラフープをくぐり、さいごにダンボールをもってぼくは走り出しました。すると一位をとれました。とてもたのしかったです。

小学三年　小見山　陽向

今年のうんどう会も白組が勝ちました。親子二人三脚で一位になって、パンくいきょうそうは二位でした。ちばんたのしかったきょうぎは親子二人三脚でした。そして白組のポイントは六十五で、赤組は五十五でした。でもしょうがいぶつきょうそうはやらなかったです。

小学三年　櫻井　亜紅

あこうは、うんどう会でたのしかったことは二人三きゃくです。どうしてかというとちゃんとれん習してきたのに二位だったことがすごくくやしかったです。だってまい年陽向くんにぬかれたことがすごくくやしかったです。だから来年は頑張って一位になりたいなと思います。けれども二位になってうれしかったです。いちばんしたにならなくてよかったです。

小学三年　森田　道矢

今年の運動会は、すごく楽しかったです。

運動会の一番楽しかったきょうぎは、玉入れです。なぜなら、ぼくの投げた玉がよく入ったからです。そして、ぼくは、きょうぎ全部がおもしろいと、思ったので、きらいなきょうぎはありません。あと、パン食いきょうそうは、去年はパンをよくとれなかったけど、今年は、パンをちゃんととれました。だけど、ぼくの家族が、みんなメロンパンだったので、がっかりしました。他に、二人三きゃくも、父と力を合わせて走ったので、二位になれました。ぼくは、赤白おうえんがっせんが好きなので、運動会に出たらいいなぁと思います。

（すべて原文のまま）

【変わる授業内容】

補習校の講師は毎週、授業の内容をそれぞれに考えています。もちろんカリキュラムに沿って行いますが、内容は各講師が工夫を凝らして考えています。どうすれば生徒が興味を持って授業を受けてくれるかというのを知恵を絞っています。最近は、インターネットなどで手軽にいろんな資料を集めることができます。授業の準備もここ数年ずいぶんと楽になっていると感じます。やはり視覚に訴える資料というのは、生徒もわかりやすいと思います。特に、日本で生活していない生徒たちにとって、日本では当たり前のものや行動なども、ピンとこないことも多いので、そんなときには、口で説明するよりも写真や動画などを活用しています。

また最近では、授業に活用できる動画なども多く、歴史や理科などの授業も以前に比べて頻繁にできるようになったと思います。

週に一度、三時間の授業ですが、その準備には倍以上の時間をかけています。一生懸命考えた授業内容でも、生徒が興味を示さなかったりすると、まだまだだと反省もするし、落ち込みますが、盛り上がったりするとその苦労も報われ、何とも言えない達成感を味わうこともあります。そして、想定以上に授業が進んでしまった時など、余った時間にやるかるたや坊主めくりなどが一番盛り上がったりして、トホホとなることもありますが、今後も盛り上がる授業を目指し、工夫をしていきたいと思っています。

GOOD 私のマーヨンなご近所

水野

日本にいた頃、身近な人が亡くなることはあまりなく、通夜だの葬式だのに参列することもあまりなかった。社会人になってから、これからはそういう機会も訪れるだろうからと喪服を購入したが、一度か二度、袖を通したきりで、日本に置いてきてしまったくらいだ。しかし、こちらで暮らすようになって、特に近所の人の訃報を割と頻繁に聞くようになった。

私は未だに人が亡くなるのを見たことがないのだが、子供たちはすでに何度か近所の人が突然の発作などで亡くなるとこを見たことがあるという。それほどこの辺では、人の死は割と日常にある。

私が夫と結婚する前の話だが、夫の叔父さんが亡くなった。まだその時、こちらの通夜というものがどういうものかもわからなかったが、とりあえずお悔やみに行くことにした。何を着ていくのか、香典などは出すのか、など、わからないことだらけであったが、とりあえず夫に連れられて、普段着のまま出かけた。家の中に棺があり、叔父さんの母親である祖母や女きょうだいの何人かが神妙な顔をして座っていた。しかし、家の周りでは、椅子やテーブルが無造作に置かれ、たくさんの人がトランプに興じていた。それはおよそ通夜の雰囲気ではなかった。ところ変われば、ずいぶんちがうものだとかなりの衝撃を受けたが、私も勧められるままに日本でいう「うすのろ」に参加し、思わずエキサイトしてしまい、奇声を発してしまった記憶がある。未だに本当か嘘かわからないけど、このトランプは現金がかけられており、儲かった人がいくらか寄付し、葬式費用を捻出するのだと説明され、以来、そうなんだと信じている。

それからはダレソレが亡くなったと近所の人の訃報を聞いても、私が出向くことはなかった。姑になにがしが渡し、それでおしまいにしていた。まぁ、実際、顔見知りではあるが、そんなに親しくはない、みたいな感じだったので、わざわざ行くこともないかな、と都合よく考えていた。

しかし、最近、立て続けに親しい人が亡くなった。一人は親戚の叔父さんで、その一家にはいろいろ助けてもらっていた。ここはやはり自ら出向かないと義理が立たないだろうと、本当に久しぶりに通夜に出かけていった。相変らず家の周りでは、とても人が亡くなったような雰囲気はなく、近所の子供たちが楽し気に笑い、大人たちは賭けトランプに夢中になっていた。そんな異様な雰囲気の中、家に入ると、奥さんである叔母さんと娘が棺のそばに座っていた。とりあえず棺の前に立ち、手を合わせる。そして白い封筒に入れた香典を叔母さんに無言で渡す。叔母さんはありがとうと言い、封筒を受け取った。長年、持病を患っていており、そう長くはないと言われながらも、かなりの年数を生きていた叔父さんであった。家族も覚悟ができていたのか、最期は苦しまなかったことがよかった、と話してくれた。狭い家の中で、椅子を勧めてくれるのだが、それはつまり、今まで座っていた人をどかして、ということなので、遠慮してすぐに失礼する。実際、長居したところで、何をどうすればいいのかわからないし、いたたまれないというのが本音であったりする。

もう一人は古い知人である。確か同じ年齢だったと思うが、とても同じ年齢に見えないくらい年齢を重ねているように見えたし、すでに孫もいて、それがすでに中学生くらいという話だ。彼もやはり持病を抱えており、あっちこっちが痛いと顔を合せるたびにぼやいていた。しばらく前にいよいよ危ないと姑から聞いていたが、ある日、息子から亡くなったことを聞いた。これはお悔やみに行かねば、と思ったが、そういえば彼の家を知らなかった。息子が知っているというので、案内をさせて出かけることにした。今回は親戚ではないので、一応、ちゃんとした格好をしなければならないのではと思い、黒い長ズボンとTシャツに着替えた。すると息子が、「何でそんな恰好しているの？」と不思議そうに聞く。仮にもお通夜に行くわけだからと言うと、そんな恰好している人なんて誰もいないよ、却って浮くよ、と言われてしまった。それでも私は日本人だから、と息子の忠告を無視し、黒づくめで出かけていった。彼の家は我が家から歩いて数分のところであったが、大きな道路からかなり奥まったところだった。大きな道路から少し入ると、無秩序に家が建てられている。迷路のような道なき道を、息子はスイスイと入っていく。そのあとを続く。急に開けたところに出たら、人だかりが見えた。相変らず家の周りでは子供たちが走り回り、大人たちはトランプに興じている。私が家に近づくと、コソコソと私の事を話しているのが全部聞こえる。そのうち私はまったく面識がないと思っていたのだが、娘というのが出てきて、家の中にいる故人の奥さんに私の名前を言って、私の訪問を告げた。これまた面識がないはずの奥さんも親し気に出迎えてくれる。棺の前で手を合わせ、香典を奥さんに渡し、そそくさと帰って来た。その数分の間、奇声を発していた子供たちは一斉に黙り、ジロジロと見られた。大人たちにしても然り。息子の言う通り、黒づくめの恰好が悪かったのか、単に日本人が来たのが珍しかったのかわからないが、久々にフィリピン人にジロジロ見られ外国人気分を味わった。

数日後、行列を作って遺体を埋葬しに行く。そして精進落とし（？）で近所の人に豚料理を振舞う。残された家族を見ていると、ああ、私一人が死んだところで、残された家族は淡淡と生きていくのだろうなぁ、と思う。それがせつなくもあり、安心したりもする。

女 37 歳　セブ島で楽しく明るい貧乏生活

JUNKO

今回は、貧乏ネタではなく感動ネタをお届けしたいと思います。セブで生活していると「財布をすられた」「携帯を盗まれた」など、物騒な話をよく耳にします。つい先日も DAREDEMO HERO のインターン生が、乗りなれたジプニーで、チャックの閉まったリュックの中から携帯と財布を盗まれました。そんなことが続くと、ついつい「人を見たら泥棒と思え」的な思考が身についてしまい、常に周囲を警戒してしまいます。皆さんもご存知の通り、フィリピン人はとても人懐っこく、やたらと笑いかけてきたり、話しかけてきたりします。その多くが悪意はなく、単に日本好きのおじさんだったり、無邪気に遊んでほしい子どもだったりするのです。しかし、100 人中 1 人悪い人がいるだけで「フィリピンは危ない」「知らない人が近づいてきたら警戒しなさい」となってしまうのです。本当に残念に思います。そんなことを日々思って生活していたある日、事件は起きました。その日、私は深夜の空港ピックアップがあり、ドライバーと事務所で待ち合わせをしていました。しかし、待てど暮らせど姿を見せず、電話にも出ない。これはフィリピンでよくあることなので、そんなことで怒ったりはしません。気持ちを切り替え、タクシーで空港に向かうことにしました。フィリピンのタクシーは安くて便利ですが、疲れている時にはあまり乗りたくありません。なぜなら日本ではありえない、困った運転手さんが多いからです。初めからぼったくろうと必死に交渉してくる人、ビサヤ語のラジオを大音量で流して大声で歌う人、やたらと話しかけてくる人、お腹が空いたからといってコンビニでスナックを食べてしまう人。元気な時はいいのですが、夜中の空港ピックアップでは、そんな運転手には当たりたくありません。そのとき乗った運転手さんは幸いにも大当たりでした。まるで日本の運転手のごとく、行き先だけを聞いてそのあとは黙々と運転。快適な車内を満喫しているところで、突然運転手さんが話しかけてきました。「Are you a Japanese?」「Yes.」と答えると、おもむろに iPhone を取り出し「さっき乗せた日本人が忘れて行ったんだ。持ち主に返してくれないかい？」同じ日本人といえども、セブには留学生を含めて相当数の日本人がいます。iPhone ケースの中に大学の学生証が入っていたのですが、それだけでは落とし主が、観光客なのか留学生なのか分かりません。しかも A.S.Fortuna の道端で乗せて AYALA で降ろしたという情報からでは宿泊先も分かりません。どうしようかと悩んでいたところ、運転手が「僕の会社の社長は日本人で、親切だから日本人が困っていたら助けたい。だから持ち主を探してくれ」と言われてしまいました。そこまで言われて、断るわけにはいきません。預かった iPhone と、ドライバーさんの連絡先をもらい、私はタクシーを降りました。そこから iPhone ケースの中を探り、見つけたのがあるホテルの Wi-Fi パスワード。それを頼りにホテルに電話をしてみると、学生証の名前の人は宿泊していないが、近くの語学学校のスタッフで、よく Wi-Fi を使いに来る人かもしれないということが判明。そこからはセブ日本人会のネットワークを使い、語学学校に連絡し、あっという間に落とし主にたどり着きました。落とし主はもう戻ってこないと諦めていたようで、本当に喜んでいました。

今回の出来事で、自分の中で強く感じたことは、海外で生活する中で自分は日本人代表であり『私の行動がこれからこの地を訪れる日本人に影響を与える』ということです。今回も、運転手さんは自分の会社の社長が日本人で、親切な人だったため日本人に親切にしてくれました。もちろん逆のパターンも起こりうるはずです。自分の行動で、一人でも多くのフィリピン人が「昔日本人に親切にされたから」と日本人に親切にしてくれるように、日々生活していこうと改めて思いました。

広告掲載のお礼

この度フリーペーパー各社（セブトリップ、咲楽、セブポット様）のご厚意により日本人会の情報、お知らせを無料で掲載していただくことになりました。
いろいろな情報がたくさんの方に発信できるようになり関係者一同喜んでいます。
この場を借りて御礼を申し上げます。

セブ日本人会　会長　櫻井絹恵

★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール：info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。
★セブ島通信では、発行日（奇数月の月初）の 1 ヶ月前を締切として原稿を公募しております。